

応 募 要 項

1 趣 旨

近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も人口が減少し、将来も減少する推計が示されています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、地域全体の衰退に結びつくものと懸念されています。人口減少の様々な要因の一つに、若年層（15～24歳）が進学・就職で県外に出て、戻ってくる人が少ない「若年層流出」があげられています。このような現状を踏まえて、地域と私たちの未来をどのようにつくり上げていくべきなのでしょう。高校2年生の皆さんにとって、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路に進むにしても大事なことです。当コンテストは皆さんが地域と自分の未来を考える契機になることを願い、実施するものです。

2 テ ー マ 人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える

3 対 象 者 置賜地区高等学校2年生

4 応 募 規 程 ①応募要項の資料編や独自の資料を参考にして、テーマについて考えをまとめてください。また、各自の題名を付けてください。

②文字数は1200字以内（400字詰め原稿用紙3枚以内）、1000字以上を目安とします。

③原稿用紙は縦書きに、1行目に題名、2行目に学校名・氏名、3行目から本文を書いてください。題名、学校名・氏名も字数に数え、不記載は減点にします。

④使用鉛筆はB又は2Bを用い、字は大きく鮮明に書いてください。

5 審 査 の 観 点 ①観察力 現状を注意深く見て学習し気づきを得ているか。

②提案力 独創性に富み前向きな提案であるか。

③主体性 自分が課題解決にどのように具体的に関わっていくか。

④論理性 客観的、合理的な論理展開ができているか。

⑤表現力 字は大きく鮮明（読みにくいものは減点）に書き、誤字脱字がなく、言いたいことを十分に伝えている文章と題名であるか。

この5つの観点を踏まえた小論文を書いてください。この観点で評価します。

6 応 募 先 各学校の担当者まで

7 応 募 締 切 各学校で指定する期日まで

各学校から米沢有為会米沢支部事務局への提出締切日 9月3日（火）[必着]

8 表 彰 最優秀賞1点 優秀賞4点 入選5点

9 表 彰 式 10月26日（土）、米沢市内ホテルにて

10 審査委員長 米沢有為会会長 平山英三

11 主催・共催 公益社団法人米沢有為会 学園都市推進協議会

12 後援・協賛 置賜総合開発協議会 置賜地区高等学校校長会 米沢商工会議所 長井商工会議所 米沢信用金庫 NCV 株式会社ニューメディア

（注）この応募要項・資料編や今までの優秀小論文並びにこのたび新たに作成した第7回小論文コンテストガイダンスを、右のQRコードからご覧になれます。



資 料 編

■ はじめに、山形県及び置賜地区の人口の動きを、将来推計人口(資料1)、県外転入・転出状況(資料2)、山形県高校卒業者の県外への進学就職状況(資料3)のデータから見てみましょう。

資料1 山形県及び置賜地区市町別の将来推計人口

	2020 年	2030 年	2040 年	2050 年	人口変化率 2050/2020
山形県	1,068,027	945,122	827,776	710,838	66.6%
米沢市	81,252	71,907	62,506	53,112	65.4%
長井市	26,543	23,140	20,005	16,881	63.6%
南陽市	30,420	26,419	22,851	19,390	63.7%
高畠町	22,463	19,257	16,549	13,826	61.6%
川西町	14,558	11,636	9,253	7,107	48.8%
小国町	7,107	5,591	4,345	3,298	46.4%
白鷹町	12,890	10,489	8,490	6,660	51.7%
飯豊町	6,613	5,435	4,422	3,508	53.0%
置 賜	201,846	173,874	148,421	123,782	61.3%

出典：国立社会保障・人口問題研究所

置賜地区では、2050年の人口が2020年と比較して39%減少すると推計されています。

資料2 山形県（置賜）の県外転入・転出状況（令和4年10月～令和5年9月）

	県外転入 a	県外転出 b	転出超過 b-a
山形県全体	14,862	18,023	3,161
若年層	4,297	6,804	2,507
置賜全体	2,690	3,417	727
若年層	835	1,361	526

出典：令和5年山形県の人口と世帯数

令和4年10月～5年9月の山形県(置賜)の県外転入・転出状況は、3,161(727)人の転出超過です。

また、山形県(置賜)の若年層(15～24歳)の転出超過は2,507(526)人となっており、高校や大学等の卒業や就職を迎える若者層の転出超過が多く、県人口減少の大きな要因の一つになっています。

資料3 山形県の高卒業者の県外への進学・就職状況

	卒業者数	大学等進学者数(うち県外)	専修学校等進学者数(うち県外)	就職者数(うち県外)	計(うち県外)	県外の割合
令和4年度	8,998	4,450 (3,251)	2,137 (1,212)	2,272 (449)	8,859 (4,912)	55.4%
令和5年度	8,767	4,282 (3,160)	2,124 (1,238)	2,158 (442)	8,564 (4,840)	56.5%

出典：令和5年度学校基本調査卒業後の状況調査山形県結果

令和5年度の高卒業者のうち、およそ57%が進学や就職で県外に出ています。

■ 置賜地域とはどのような地域でしょうか。それに関連する資料として、置賜総合支庁作成の『令和5年度置賜地域の概況(令和5年7月)』があります。

資料 [r5okitamagaikyo0.pdf \(pref.yamagata.jp\)](https://www.pref.yamagata.jp/r5okitamagaikyo0.pdf)

また、山形(県)には、ゆとりのある暮らしと充実した子育て環境があります。「山形県の暮らし」から見てみましょう。例えば、次のようなことです。

資料 <https://yamagata-iju.jp/pref/number.pdf>

仕事		高い正規雇用率と共稼ぎ率（全国 2 位）、短い通勤時間（東京の半分以下）、仕事からの帰宅時間が早い、有給休暇取得率が高い、育児中の女性の就業率が高い
子育て・教育		待機児童数「ゼロ」、安い教育費（東京の半分以下）、一人ひとりに丁寧に向き合え、地域の魅力や伝統に触れられる教育環境
暮らし	住まい	安い住宅購入費用（東京の 60%）、高い持ち家比率（75%）
	安心・安全	低い犯罪率（全国 6 位）と高い検挙率（全国 1 位）
	お金	東京と比べ、収入差は約 7 万円/月であるのに対し黒字額の差は約 2 万円/月

次に、国(厚生労働省)は人口減少社会についてどのように考えているかについて、『平成27年度厚生労働白書』から見るができます。その概要版の資料を下記からご覧になれます。この資料は難しいかもしれませんが、挑戦してみてください。

資料 <https://www.mhlw.go.jp/content/000351674.pdf>

■ 人口減少の一因である「若年層流出」等の状況を統計データで見てきましたが、これに歯止めをかける様々な対策が講じられています。それらの取組を紹介しましょう。

資料4

置賜圏域の将来像・・・行政施策「置賜定住自立圏共生ビジョン」の取組例

人口減少や高齢化は急速に進んでおり、今後も、こうした傾向は続くものと予測されます。急激な人口減少は、労働力人口の減少による地域経済の縮小、担い手不足による地域活力や地域機能の低下、社会基盤の維持管理コストや社会保障費の増加等による自治体財政の悪化などを招き、さらなる人口減少を引き起こしてしまうといった悪循環に陥る危険性をはらんでいます。こうした状況の中、今後も、地域の活性化を図り持続的に発展していくためには、単独自治体での事業展開には限界があることから、広域で連携し、効果的、効率的に行政運営を行うことが必要です。また、自治体間の連携に加え、圏域内の関係団体、事業者、住民等との協働を推進することで、さらなる相乗効果が期待されます。このような認識の下、置賜圏域の8市町は、それぞれの独自性を維持しながら、地域の魅力をしっかりと磨き、その上で様々な分野において連携を深めつつ、住民の暮らしに必要な諸機能を圏域全体として確保することで、住民が暮らしやすい、活力ある圏域を創造し、共存共栄を目指します。置賜圏域のかけがえのない財産を次世代に引き継ぎ、圏域全体が未来に向けてさらに発展するよう、医療や福祉、子育て・教育の充実を図り、置賜の持続的発展を支えるとともに、中心市である米沢市の特色である学園都市の強みを生かして大学等と連携し、地域経済を活性化させ、人々の交流で賑わう社会基盤を形成することで、魅力あふれる圏域を目指し前進していきます。

出典：置賜定住自立圏第2次共生ビジョン（令和6年3月策定）「圏域の将来像」から

資料5

若者定着・若者回帰に向けた県内の諸取組の紹介

〔事例 1〕 山形県と大学等との U ターン就職促進協定 29 大学等と協定を結ぶ

山形県では、山形県内の企業情報等の提供、大学内での就職ガイダンスの開催等について、大学等と連携して取り組むことにより、U ターン・I ターン就職の一層の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として実施している。

＜協定締結大学 令和 5 年 11 月 19 日現在＞ 東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学、明治大学、国士舘大学、駒澤大学、東洋大学、文教大学、立教大学、帝京大学、帝京大学短期大学、明治学院大学、立正大学、拓殖大学、立命館大学、法政大学、千葉商科大学、神奈川工科大学、関東学院大学、東京工科大学、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校、東北学院大学、東北工業大学、東北福祉大学、東京農業大学

出典：山形県雇用・産業人材育成課

〔事例 2〕 やまがた就職促進奨学金返還支援事業の実施

大学等に在学中の方を対象として、県と市町村が連携して奨学金の返還の一部を支援する事業。米沢有為会、長井教育会、飯豊町も市町村枠で実施。平成 27 年度から始まり今年度も継続。要件や手続き等については、山形県の「やまがた就職促進奨学金返還支援事業」をご覧ください。

出典：山形県産業創造振興課

〔事例 3〕 高校生就職希望者や就職者に対する地元への人材確保・定着の諸取組

置賜地区雇用対策協議会（行政機関〔米沢市・南陽市・高畠町・川西町〕や米沢商工会議所、ハローワーク等が連携し、若者の雇用安定を目指す団体）が、模擬面接会（高校 3 年生対象）や企業説明会（高校 2 年生の就職希望者に向けて企業動画を制作）、新規学卒者ビジネスマナー講習会や新入社員フォローアップセミナーなどの諸事業を実施している。求人・求職者の両面からサポートし、雇用の確保と定着、就職支援に取り組んでいる。

また、西置賜地区雇用対策協議会では、企業と繋がる就職サーチアプリから企業の最新募集情報が閲覧できるようになっている。

〔事例 4〕 各高等学校における多様な取組

各高等学校においては課題研究や探究学習における地域学習の展開や、職場見学・体験、インターンシップの実施などを通して、郷土愛を育むとともに、社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成を目指した多様な特色ある取組が行われている。

〔事例 5〕 働く人の様子・思いなどを SNS で発信

米沢商工会議所が、若手社員や経営者などへのインタビューにより地域で働く魅力を発信する「よねざわのわわわ」[URL: [米沢商工会議所 \(jinzaikakuho-yamagata.info\)](http://jinzaikakuho-yamagata.info)] プロジェクトを企画・実施。高卒就職者や県外大学へ進学後の U ターン、他地域からの I ターン事例など幅広い情報をInstagram や動画などで発信している。

＜米沢有為会からの一年早めの情報＞・・奨学金と学生寮の募集案内

米沢有為会では、皆さんが再来年大学等へ進学した後の学生生活を応援するために

① 3 つのタイプの奨学金（貸与型：女子向け住居費補助奨学金 2 万円と一般貸費奨学金 4 万円、減免型：地元若者定着奨学金 4 万円条件を満たせば 2 万円減免 いずれも無利子）と

② 東京と仙台に男子学生寮（平日朝夕 2 食付き、個室、月 6.5 万円程度）を用意しています。

今から情報をゲットしてみてください。

詳細は米沢有為会 HP で（QR コードからどうぞ！）

